

タケダ・ウェルビーイング・プログラム 2023

成果報告レポート

助成番号 23-1-2

プロジェクト名	メタバース空間を活用した病気や障害のある子どものコミュニティづくりと子どものQOLサポート役割マップの制作
団体名	一般社団法人チャーミングケア
代表者名	石嶋瑞穂
助成額	166 万円
設立年	2019 年
URL	https://charmingcare.jp/



*各項目の分量はお任せします（全項目合わせて2頁程度）

(団体について)

小児がん治療や医療的ケアは進んでいますが、病気による子どもの見た目ケア（アピアランスケア）に関しては、公的な財源がほとんどなく、また支援の必要性も知られていません。大人が考えている以上に子どもたちは見た目（浮腫み、脱毛、傷跡、医療的機器の装着など）を気にしているものの、医療者も親も治療に目が向き、サポートが行き届いていない現状があります。当団体では、病気や障がいを抱える子どもやその家族が必要としているケアの情報を届けるためのポータルサイトや、国内唯一の病児障害児専門医療ケアグッズのECマーケットプレイスの運営をしています。また、病気や障害のある子供と家族のための支援を学ぶ研修事業、医療ケアグッズのショールームと、コミュニティスペースの運営などにも取り組んでいます。

(助成による活動と成果)

今回の助成では、病気の子どもたちが、見た目を気にすることなく自由に参加できるメタバース空間「メタバースワールド」を構築し、イベントやゲーム、お話し会などを通じて交流を深める居場所づくりに取り組みました。「メタバースワールド」は、小児外来学会にも展示し、小児科の先生たちにも実際にメタバースを体験いただいたことも成果の一つです。

メタバースに参加した子どもたちは、オンラインで交流できる機会として職業体験も提供しました。また、医療的ケアグッズのショールームを設置し、オープンイベントを開催。地元メディアにも取り上げて頂いています。

さらには、子どものQOLに関するニーズを調査し、病院や学校、日常生活など、それぞれのシーンに応じた支援者の多職種連携サポートマップを制作しました。

主な成果は以下のとおり。

- ・メタバースワールドの制作が予定よりも早く完成したので、運用面に時間をかけて試行錯誤することができた
- ・活動を通して発見した課題の抽出と検証（復学支援を支える人材の育成）
- ・本助成によって調査した内容を論文にし、小児保健研究という医療系学会誌に寄稿掲載

「小児保健研究」83巻4号に論文寄稿

『子どもの外見ケアとメタバースを活用したこれからの復学支援

Appearance care for Children and Support for Returning to School Using the Metaverse』

3,メタバースワールドに関してメディアにて取り上げていただいた
教育新聞

<https://youtu.be/jc3PyaCzAx4?si=vujTwybFOtPKVJuA>

(残された課題、新たな課題)

復学支援の重要性と、メタバースの可能性に関して少しずつ分かってきているので、少しでも子どもたちの不安を解消できるようなプログラムの展開を考えていきたいと考えています。

また、現状において復学支援を担っている役職や職種がないことも分かり、復学を伴走できる人材の育成にも力を入れていきたいと思います。

(活動の背景・社会的課題) (団体からのメッセージ)

子どものアピアランスケアについて色々と深掘り調査や子どもへのヒアリングを行った結果、アピアランスケアだけではない課題が浮き彫りになっており、その中でメタバースでの子どものコミュニティの位置付けを再確認し、学校でも病院でもないサードプレイス的な場所として広げていきたいと考えています。